

## JR連合「第13回政策シンポジウム」開催！

JR連合は12月12日、「京都テルサ」において、「第13回政策シンポジウム」を開催し、連合、交運労協の代表、労働・産業政策に関わる有識者、会社関係者、連合加盟産別の代表者、そして全国の加盟各単組・エリア連合の仲間の総勢400名以上が参集した。私たちが迎えようとする激変の時代に向けて、労働組合の視点でのJR産業に関わる政策について、特別講演、パネルディスカッションなどを通じて、その課題を多くの仲間たちと労使がともに認識できた。社会的な使命の共有こそが大切であることを内外に伝えるものとなった。

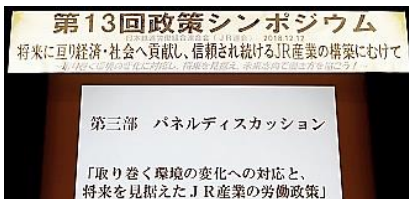


シンポジウムは4部構成で行われ、第1部は、特別講演として、独立行政法人労働政策研究所・研修機構の山崎 憲氏と、法政大学大学院の教授 藤村 博之氏よりそれぞれ講演をいただき、第2部は代表単組からの報告（課題提起）、第3部は、「取り巻く環境の変化への対応と、将来を見据えたJR産業の労働政策」と題したパネルディスカッションを行い、コーディネーターを前出の法政大学大学院藤村教授が務めた。そして、第4部はJR連合からの新中期労働政策ビジョンの提起にむけた経過報告などがなされた。

**第13回 政策 シンポジウム**

**将来に亘り経済・社会へ  
貢献し信頼され続ける  
JR産業の構築にむけて**

取り巻く環境の変化に対応し  
将来を見据え 未来志向で働き方を描こう！



冒頭、主催者代表の松岡会長からあった、「本シンポジウムを通じ、JR産業の発展に寄与する産業政策を念頭に、働く者の視点で、



パネルディスカッション パネリストの皆さん

次代を切り拓いていく労働政策を練り上げていくための考察を深める1つの機会にしたい。」とする開催趣旨のとおり、集まった多くの仲間、ご臨席いただいた多くの方々に広く、そして深く心に訴えるシンポジウムとなった。JRという日本を支える重大な

インフラ産業として、私たちが労働組合の立場で、考えていかなければならない。

**JR産業の発展と、仲間たちの幸福実現をめざすJR連合に結集を！**